

平成29年 第4回神戸市役所本庁舎のあり方に関する懇話会

日時：平成29年5月19日

開会 午後1時30分

○事務局 ただいまより、第4回神戸市役所本庁舎のあり方に関する懇話会を、開催させていただきます。

○岡田会長 皆様、お忙しい中、お集まりいただきまして、ありがとうございます。

神戸市役所本庁舎のあり方に関する懇話会報告書（案）につきまして、事務局からの説明をお願いいたします。

○事務局 お手元の資料1、神戸市役所本庁舎のあり方に関する懇話会報告書（案）をご覧くださいと思います。

1ページでございます。1、神戸市役所本庁舎のあり方検討の背景という形で、本庁舎の歴史的経緯でございます。現在の2号館であります市役所の本庁舎につきましては、昭和32年4月26日に兵庫区松本通り1丁目、現在の湊川公園、もしくは兵庫区役所の道路はさんだ西側でございます現在の湊川中学校でございますが、そちらから本市発展の基盤となります、港湾に近く国際港都の特殊性を活かす好適の地としまして、現在地の中央区加納町に移転してきたところでございます。

当時の移転前の庁舎につきましては、本庁舎のほかにも10数箇所、かなり分散してきたというふうに記録されております。行政需要の増大だけでなく、このような非効率的な状態を解消するために現在の2号館を建設して、行政機能の集約を図ったところでございます。

その後も、行政需要の増大とともに行政組織は拡大を続けまして、昭和41年に現在の2号館の西隣、道路を挟んでの西隣に現在の3号館を建設したところでございます。

また、平成元年には、事務処理の効率化や当時の言葉でございますが、OA化に対応するために現在の1号館を建設したところでございます。ただ、兵庫区から移転し

てきたこの間に本市の人口は、昭和32年当時は103万3,000人ほどでしたが、現在平成24年から人口減少が続いておる状態ではございますが、平成29年5月時点で153万4,000人に増加してきているところでございます。これに伴います行政事情の増大などに伴って、本庁舎のあり方も変わってきたところでございます。

本庁舎2号館が、建設から60年を既に迎え、また、3号館につきましても、この9月で51年を迎えようとしているところでございます。老朽化が進み、先の阪神・淡路大震災におきましても被害を受けているため、建替えを検討していく必要があるという歴史的経緯がございます。

続きまして、2の本庁舎周辺地区の位置づけでございますが、三宮周辺地区の「再整備基本構想」平成27年9月に策定されたものでございますが、都市間競争におきまして、選ばれるための魅力・活力の創造、また、地区内及び周辺地域への回遊性向上、商業や業務、文化、交流機能の集積と更新などが求められております。本庁舎のあるこの場所につきましては、再整備基本構想の中の地区内で、三宮駅から旧居留地、ウォーターフロントへの動線上でございます。周辺地域の人の流れをつくっていくことが求められており、そのためにも本庁舎の建替えでは、庁舎のみの建替えにとどまらず、人の流れ、回遊性を創出していけるような新たなにぎわい機能が求められているところでございます。

続きまして、3、本庁舎のあり方検討でございますが、本懇話会の第1回のときに市長が挨拶で述べたところでございますが、街の魅力向上、回遊性向上、将来の神戸のためにはどのような建物がふさわしいのか、行政機能の集約化・分散化も含めて、どのような機能をもたせるのがよいのかを、神戸市役所本庁舎のあり方に関する懇話会で委員の皆様からいただいた意見をまとめるという形でございます。

2ページ、2、基本的な方向性でございます。懇話会におきましては、三宮周辺地区の再整備基本構想を踏まえ、これに掲げられています本庁舎周辺地区の課題、求め

られることに対して、それらを解決するための方向性の検討を行っております。

1つ目の課題、求められることとしまして、（1）商業や業務、文化、交流施設の集積と更新についてという形で、解決するための方向性として、神戸に暮らし働く魅力を高めるということで、イベントの場の提供、魅力的なイベントの開催、また、文化交流や生涯学習の拠点等を掲げているところでございます。

（2）都市間競争において、選ばれるための魅力、活力の創造についてということで、解決するための方向性として、神戸を訪れ長時間滞在する魅力を高めるという形で、大規模建物の低層部へのにぎわい施設の誘導、個性あふれる連続する店舗、路面型・回遊型店舗を誘導するなどございます。

3つ目の課題、日常的なにぎわい空間やイベントなどができる広場の不足、まち中に休憩スペースがないことについてでございますが、解決するための方向性として、市民や来街者が自由に集い憩える滞在空間を創出するという形で、休憩できる快適な緑陰空間の整備、まち中の滞留空間の創出、イベントの場の提供でございます。

（4）地区内及び周辺地域への回遊性向上、徒歩圏内の魅力的なエリアへの回遊性が低いことにつきまして、解決するための方向性として、回遊性を高める歩行者ネットワークを構築するという形で、統一された街並みや連続する低層部のにぎわいなど、歩く楽しさを誘導し回遊性を高める、歩道拡幅や緑や花壇などの環境整備により安全で快適な歩行者環境の創出といったものでございます。

（5）シンボル軸としてのフラワーロードの魅力が弱いことにつきましては、解決するための方向性として、神戸らしい緑と花のプロモナードの形成という形で、緑陰空間や休憩場所と一体的に、緑と花の空間整備を行うというものでございます。

4ページ、3、この建替えに際して、求められる機能として、本庁舎周辺地区の課題解決に向けた方向性を踏まえ、本庁舎の建てかえを行う場合に求められる

機能について、検討を行いまして、各委員の皆様方から御意見のほうをまとめているものでございます。これらの求められる機能につきましては、総論といたしまして、市民や来街者が集い、コラボレーションを創発するもので、さらにハード面、ソフト面ともフレキシビリティの高いものが望まれるというものでございます。

求められる機能の具体例としまして、（１）三宮中心部からウォーターフロント、旧居留地への人の流れを創出するためという形で、人の駅、ターミナルという形でほかのエリアを活性化する、既存の都市ストックの活性化及びネットワーク化などでございます。

次に、（２）交流発信拠点としましては、多種多様な人が集う場、自己実現、自己表現の場、知識の集積機能、市民と専門家の交流機能、スタジオなどを含めたメディアセンター、イベントスペースなどでございます。

次ページにまいりまして（３）行政機能についてでございますが、三宮駅周辺の行政機能を市役所・東遊園地周辺ゾーンに集約するという形、また行政機能は３号館あるいは２号館上層部分へ集約し、にぎわい機能につきましては、２号館低層部分へ配置するというものでございます。本庁舎に必要な行政機能と、また本庁舎以外に、分散化できる行政機能の整理、また市民のコラボレーション創発を支えるような行政機能の配置という形でございます。

（４）神戸の文化、ライフスタイルが見つかる拠点としまして、神戸のファッション文化や食を発信、神戸セレクトマーケット、ショールームなどでございます。

（５）文化芸術発信拠点といたしまして、規模の多様な御意見はありましたが、劇場、音楽堂、スタジオ、ライブハウスなどでございます。

（６）来街者滞在のためのハイグレードタイプホテル、都市型リゾートホテルなどでございます。

（７）産官学連携ゾーンといたしまして、サテライト校舎、エクステンションセンターなどでございます。

(8) 起業家の育成拠点としまして、共有型ワークプレイス、オフィス支援等が掲げられているところでございます。

続きまして、6 ページは、ただいま御説明させていただきました基本的な方向性、建替えに際し求められる機能を一覧にしたものでございます。

課題、求められていることに対しまして、求められる機能との相関をあらわしたものでございます。

7 ページは、第3回懇話会におきまして、今後の展開、ビジョンをポンチ絵でありますとか、ダイアグラムに視覚化、ビジュアライズという御意見がございましたので、この庁舎の求められる機能につきまして、少しビジュアル化したものでございます。

委員の皆様方には、お手元に置いております資料は、低層部のにぎわいで人の流れのイメージを、北側へは赤色の矢印で示しております。南側へは緑の矢印で、2号館の低層部分のにぎわい、人の流れ等をイメージしたものでございます。

それと、本庁舎に求められている機能のイメージ、建物の配置等、あと、低層かどうかというのは別にいたしまして、求められている機能を積み上げたような形で表現したイメージ図でございます。

8 ページには本懇話会の委員の皆様方の名簿、9 ページにこの懇話会の開催状況、10 ページから12 ページにつきましては、皆様に一応お諮りした上で、ホームページ等に議事要旨等も載せているところではございますが、第1回から第3回までのこの懇話会での主な意見を掲載させていただいているところでございます。

最後に、本日出られた御意見につきましては、1番後ろのページに付けさせていただきたいと思っているところでございます。

非常に雑駁な説明でございますけれども、以上でこの報告書案の説明を終わらせていただきます。以上でございます。

○岡田会長　ただいま説明のありました報告書案の内容に基づきまして、これをどういうふうにまとめていくか、御意見頂戴したいと思います。

○柏木委員　私から2点、申し上げたいと思います。

まず1つは、4ページで建替えに際して求められる機能とタイトルがついておりませんが、これは「求められる機能」なのではなくて、「望まれる機能」なのではないか。なぜかといいますと、2ページ目3ページ目が、三宮地区に求められている現状の課題をあげて、それに対してこういったものが必要だということが、あげられていたかと思います。これは三宮地区に関するものです。4ページ目が、本庁舎に求められるものとなっているが、三宮地区での課題を全てこの本庁舎でカバーするというのはやはり難しいことなのではないかと思います。限られたスペースの中で、皆さんの議論というのは、これまであったらいいなという機能をあげていただいたのであって、全てを求めているというわけではなく、「あったらいいな」の議論で出てきたいろんな意見という意味合いをもたせてはいかがかなと思います。今後、さまざまな議論の中で、このあげられてるものが、現実的に限られたスペースの中で絞り込まれていくのではないかと思います。その際にあらかじめ、位置の効果、この場所の効果と、集積・集合されていることによる効果と、それから代替案がその周りにはないかどうかという有無で、今後そのウエイトというのは変わってくるのかなと思います。

2点目ですが、後ろのほうにこれまでの簡単な議事録がついています。これまであがってきた意見を整理していただいたらいいのではないかなと思います。ただ単に議事録としてあげるのではなくて、せっかくあげられた意見を、再分類してほしいなと思います。そうしていくとさらに、これまであがってきた「あったらいいな」という議論の中でも、もう少し具体に見えてくるのではないかと、例えば機能は固定化し過ぎるのはよくないというふうに第3回のところでもあがってきてますし、いろんなことがもう少し細やかに書かれていますので、こういったものを再分類化していくところの委員会で何が議論されてきたのかというところが、もう少しわかりやすくなるのではないかなというふうに思います。

○岡田会長　ありがとうございます。主な意見については事務局で再分類をして、

整理をしてより分かり易くしてください。

○福岡委員　　4 ページ、5 ページ目の建替えに際して望まれる機能はすばらしい回答にはなっていると思いますが、神戸らしさ、K O B E - N e s s ということは何なのかということを考える必要があると思います。神戸という街の中心に、このような機能が存在しているというだけではなく、市庁舎の建替えの際に、どのようにして神戸らしい空気をつくっていくのかを考えていました。

大切なのは、具体的なモノだけで神戸の文化だけを伝える、ファッションの発信基地をつくるなどという話のもう少し前段階で、考えるべきことがあるということを経験したいです。神戸のもつ国際性や戦略、そして神戸の港湾の機能は変わってきていますが、神戸は都市として世界に開いている、また世界からいろんな人が集まってきて、国際交流だけではなく、世界の人達からさまざまな文化を咀嚼して、神戸らしさが長い年月をかけて醸成されてきました。こうした神戸独特の開放的な考え方であるとか、国際的な知見をもった人達、そして神戸の人がもつ魅力のようなものは、市庁舎建替えの議論のどこに落とし込まれるのかなということを考えています。取りまとめをされる際に、もう少し神戸らしさというか、神戸のこの場所に来たときに、神戸の発信はもちろんです、神戸らしさというものを感じられる、そこに神戸の人たちの国際性であるとか、そこに暮らす人の文化が表出しているような、そうした視点が抜けているのではないかというのが最初の指摘です。

次に、最後のまとめのポンチ絵ですが、私たちは空間像を伴いながらのにぎわい施設の議論は避けてきたというか、余りしてこなかったと思います。この懇話会では、計画条件であるとか、どういう方針をたてるかということを経験することを中心に取り組んできたわけですから、ポンチ絵のように低層部に商業を入れて、上にはタワーを積みましようみたいな話は、まだ全くしておりません。こういう絵がひとり歩きするのはよくないと考えます。この7ページの図は、方針として都市的な視点でこれはいいと思います。

○岡田会長　神戸らしさというのを、どういうふうにしてここで表現をするかということが大きなポイントではないかという御指摘でございました。神戸らしさを落とし込むというのは、かなり大きな仕事かも知れませんが、福岡委員、何かアイデアとかございますかね。

○福岡委員　神戸市が建てているさまざまなビジョンやコンセプトでいろいろ書かれているが、少しそれをここにふさわしい形で落とし込むことによって、これが空間として位置づけられるっていうことだと思うんです。それを全く新しいビジョンを作る発想ではなくて、既にあるものをきちんとこの中でうまく落とし込めればいいんじゃないかなっていうふうに思っています。

○柏木委員　機能的な面が書かれているが、このところに情緒性みたいなところもあわせて考えていく、そこが演出だったりデザインだったりとか、そういったところに影響してくるものなのかなと思います。

○中右委員　7ページの絵に関してなんですけれども、市役所を拠点にそこから人の回遊性が生まれて、魅力的なエリアに人が広がっていくみたいなことが書かれていますが、実際にその具体的、魅力的なところってなんだろうっていうのを、もう少し具体的にこの図の中にイメージされたほうがいいのかないかなと思います。人によって魅力的なものって違うと思いますが、例えば神戸らしい店舗であったりとか、神戸の老舗の店であったりとか、そういうものをプロットしていくことによって、この市役所を中心にして生まれる人の流れとか、神戸の魅力というものが広がっていくのじゃないかなと思います。

建物を建てる時は、どうしても欲張って建てれるだけ建てようと思うんですね。この場所に求められる機能をいろいろ入れたいから大きい建物を建てておこうとか思ってしまう。これから人口が減少していくということも考えられるので、余り大きなものを建てるにあとで床面積が余って、空きスペースができて残念だなんてことになりかねないので、少し控え目に床面積を見積もって、そこから建物の形をつくってい

くってというのが現実的なのかなと思いました。

○岡田会長　この絵につきましては、もう少し導線がわかるような人の流れがわかるような形にしてください。

○石川委員　フレキシビリティというところがやはり重要な1つのキーワードになっていると思います。その意味では、視覚的に固定化させないような図が必要なのではないかというふうに思っております。

もう1つ、神戸らしさというところをどういうふうに考えるかっていうところなんです。神戸は港町だったからこそ昔から他者を受け入れる、温かく受け入れる土壌があるというのは、1つ神戸の大きな魅力だと思います。異なる立場の人、異なる文化の人、異なる世代の人がいろいろ交流している、交流できる、それをお互いを認め合っていて、しっかりと意見を共有することができるところが、私は神戸の魅力だと思うんですね。そういうことをきちんと受け入れますよというふうな、対外的にアピールすることが個人的には神戸らしさにつながるのではないかと考えています。

国内外問わずさまざまな人たちが交流をする。その場というものがしっかりと神戸のこの拠点を中心に息づいて、さらにそれが国内外問わずどんどん広がって情報発信しているというようなところを、しっかりと目指し、さらにそれをアピールできれば、それが1つの神戸らしさになるのではないかというふうに考えています。

○大谷委員　神戸らしさってということから思ったんです。この市庁舎周辺だけに小じんまりとイメージが固まっているなという気がします。この小じんまりしている中でも、僕惜しいなと思うのは、K I I T Oをもうちょっと強調してもいいんじゃないかなという、例えば、3ページに三宮から本庁東遊園地を一体的にネットワーク化という、ここにK I I T O、ウォーターフロントが入るべきだと思います。

神戸市内にはたくさん文化施設があります。文化ホール、神戸アートビレッジセンター、ダンスボックスもあり、あるいは博物館や美術館も結構たくさんあるんですが、そういうところのネットワークの1つの中心拠点としてここがある。だからここ

に来ると、神戸らしさって言ったときに、この周辺だけではなくて実は神戸っているんな文化施設があるということがわかるような、そういうふうな場所であればいいかなと思いました。

○岡田会長　文化、芸術の施設のいろんな横断的なものの拠点というようなことで言い替えてよろしいでしょうか。

○大谷委員　そういう拠点、そのものが国際的にも海外と繋がっている、あるいは国内的にも違う地方都市と繋がっているというようなことが見えてくるってことがとても大事で、例えばここに行く情報がちゃんとわかるっていうふうなことも必要かなと思っています。

○南部委員　K I I T O、ウォーターフロントに関係しますが、つい先般「078」という催しございまして、K I I T Oに行つてつくづく思ったのですが、2号線を挟んで向こう側がやっぱり遠いなという感じ、一体感が感じられない。2号線を超えてK I I Tやウォーターフロントへ何とか人の流れを作っていくアピールの方法として、この建物をもっと使えないかと思いました。

神戸と言えば港でしょう、海でしょう、船でしょうというのがやはり身近なイメージだと思うので、建物に何か、港らしいイメージっていうのができないものだろうかと思ったりいたしました。

2ページに「神戸に暮らし働く魅力を高める」と書いてある。「働く」とはある程度有償で働くというイメージが湧いてくるが、そうじゃなくていろんな形、ボランティア活動なども含めた広範囲の意味で言うと、「活動」というふうに捉えたほうがむしろ正しいのではないだろうかという気がしたりいたします。

○山下委員　先程、開港150周年の記念式典に参加させていただきまして、30年後の神戸港のイメージ図を拝見いたしました。驚くようなイメージ図、あのメリケンパークオリエンタルホテルの横にフェリーと客船がとまっている絵を見て驚きました。イメージ図だから何とでも書けるのかしれないですけど。本当に、海岸線、湾岸

線、西伸部がずっとつながって、長田のほうに道路がつながっていくというイメージですね。その図を見て、ウォーターフロントは本気で改造しようとしているなど、いうことを感じました。その絵の中で、神戸空港から新神戸までのアクセスを考えることは書かれていたが、車の動線をどうするのか心配になりました。

本庁舎の周辺との関係性のイメージで、神戸市役所が影響を与える範囲は南北なんです。フラワーロードと東遊園地です。貿易センター駅のほうから見た市庁舎、こっちのほうの影響力のほうが大きいんじゃないかなと思っております。

1号館の南に2000年に関電ビルが建ち、海が見えなくなった。街ってというのは生き物ですから、今、議論していることの30年後に何が建ってるか分からないんですよ。そういうふうに考えると、この2号館、3号館の建物ってというのは、30年後の神戸の町を形づくる、言えば目標というランドマークみたいになっていくんです。港町神戸をイメージとした建物であるべきだと私も思います。

市庁舎ってというのは、どこまでいっても職場なんです。余り多くの機能を詰め込もうとしないで、市庁舎の外観やあるいは周りに与えるイメージっていうところを、まず考えられてはいいんじゃないのかなと私は思っております。

○野村委員　報告書を見ると非常に総花的な感じになって、じゃあこの場所は何を目指してるのかっていうのは分かり難くいと思うんですね。今後、役所の中でプランニングを進めていかれると思うんですけども、もうちょっとコンセプトというか、それがやはり出てこないといけないと思います。神戸市全体の都市戦略の中で、この場所がどういう位置づけを持っているのかが必要なんじゃないかなという気がします。

産学連携とか、あるいは専門家と市民の交流機能であるとか、アントレプレナーの育成の拠点であるとかっていうある種の新しい産業を創出するような機能というところと、文化、芸術というところが、これが一体になっているというのは決して悪いことではないなと思っております。

今までのような単純な物づくりとか製造だけじゃなくて、いわゆるサービス産業

化というか、人の暮らしとか、人がどう思うかっていうことが、非常に身近に感じるということが大事なので、そういう意味では文化芸術的なことと、新しい産業を起こすための仕組みってというのが一体化になっている場所ってというのは、魅力的ではあるなというふうには思います。

○南出委員 「078」というイベントの実行委員をしていました。その時にK I T Oで行われているカンファレンスというのに非常に興味をもちました。いろんなことを実験的に思い切ってやってみたいという、それがやれる場所なんだなというのは非常に感じました。神戸市がいろんなことを実験していこうっていう体制がすごくあると思うので、何かそういう拠点にすると場所的な距離感、2号線のこととか簡単に越えられるような気がちょっとしました。

○品田委員 6ページの表が割とよくできていながらまだ未整理なのかなという感じがします。特に求められる機能、具体例のところですらっと並んでいるんですね。このずらっと並んでいるのが、総花的な印象が非常にあって、ここを整理できればいいかなとは思っています。左側の3点は考え方、原則じゃないでしょうか。フレキシビリティというキーワードがあったり、それからウォーターフロントに人を流すという、ちょっと外との、建物と外の繋がりってというのが2番目の原則ですよ。左から3番目の交流発信ってというのが、多分この建物を中心とする考え方で、そういう神戸らしさという点で言うと、多種多様な人が集う場っていうそのあたりのところをこの建物で実現して行く。これ3原則じゃないですかね。そうすると、右側に並んでいるものってというのは、この3つの原則でうまく整理していただくことができるんじゃないかっていう感じがします。2軸か3軸かで、マトリックス整理したら何かすっきりしたものになるような気がいたしました。

○福岡委員 神戸は現在、街の中で実験的な試みもされています。社会実験が続いている中、この街の核になる場所のコンセプトの計画条件の背景にある神戸らしい取り組みをもっともっとアピールしていただきたいと思います。報告書には関連する社

会実験の取り組みもうまく整理をされると、より神戸らしさということも伝わるのではないかと考えました。

○岡田会長　　4ページの(2)の交流発信の拠点としてということで、5つ目のポツのところにメディアセンター(スタジオ等含む)がありますが、これは、これまでの懇話会の中で、そういうスタジオ等の情報発信の場が必要ではないかという御意見があったものですから、それを拡大してメディアセンターという言葉で表現していただいたらどうかなってということで、御提案したしだいです。と申しますのは、神戸はトータルでメディアといいましょうか、大阪や福岡に比べて情報発信の力が弱いのかなと思っております。

神戸市のこの建物の中に結構大きなメディアセンターというのをつくっていただいて、そしてそれを民放の方々、あるいはニュースメディアとかいろんなインターネット等の情報発信の機能が中心となって、コラボしながら情報発信できるようなスペースで、神戸市はこんなことやってますよ、兵庫県も含めてこんなことやってますよ、ここに行けば何がありますよってというような情報を、神戸市が意識的にかつ積極的に発進していかない限り、大阪市に比べて弱いのかなというふうに思っております。

万が一、自然災害が起こった場合でも、そこを情報発信の基地にすれば対応できるというようなこともあり得るのかなと思っていまして、そこにスタジオがある、メディアの方も在住している、それから神戸市の情報等をもっともっと発信できるようなことがあるのかなと思いました。

○軒原委員　　「望まれる機能」が書かれていますが、今、聴覚障がい者の方にかかわってまして、聴導犬と一緒に生活されています。聴導犬とともに生活されているのは、ほとんど兵庫県でも3人か4人くらいしかいらっしやなくて、理解がまだ進んでいなくて、補助犬には盲導犬と聴導犬と介助犬があるんですけども、なかなか理解していただけて、新聞にも出ていましたけれども、病院とか飲食店でも同伴でなかなか入れなかったり、そういった方の声が多いというのがデータとしても出て

おりました。どんな方にも市民に開かれたという、そういう市役所の機能を目指していただきたいと思います。多種多様な人が集う場というふうにあります。本当に全ての方が本当に行きやすい、そういった機能を考えて検討していただきたいなと思っております。

○野村委員　メディアセンターは、本当に必要だと思うんです。神戸にはいろんな魅力があったり、いろんな取り組みがありますが、我々大阪でもなかなかそれが分かり難く、近くにいてもなかなか分かりにくいので、発信拠点といいますか、そういうようなのが望ましいと思います。ただ、テレビだけに捉われず、既存メディアだけではなかなか力になりにくいところも現実であるので、新しいメディアも含めて考えて行くといいと思う。そういう場所があると、例えば産学連携で何かやるにしても、あるいは神戸の中の企業が新しい製品発表するときに、今までは東京で記者発表とかしていたが、そういうことを地元でやっていけるような場所があると、望ましいんじゃないかと思えます。特に、学生さんなんかもそこを使えるような場所になると、望ましいんじゃないかなというふうに思えます。

それをどういう施設にするか、どういう運用をするのかはよく考えないといけない。

○福岡委員　同じく5ページに関してですが、「望まれる機能」ということで、(6)や(7)で産学連携ゾーンに関してのコメントです。最近の大学のトレンドとしては、サテライト校舎を都心部につくることで、都市型キャンパスに学生を集めやすくするなどの戦略がたてられており、大学は郊外から都心部に回帰しています。施設としては、エクステンションセンターやサテライトというのは、もちろん望まれる機能であると思いますが、これから、より議論を深めて知識集約型社会における新たな場としての機能も期待したいと思えます。例えば神戸大学では、世界中の大学と毎年、国際ワークショップ交流をしています。ただし、この国際交流の場や大学周縁部に限定的になる傾向にあります。学生にとっては、街に出て行って神戸に住む大人と一緒に関わりながら表現の場をもつということは、非常にやりがいのあることです。

一方、大人やほかの市民の方たちも、海外からの来訪者や学生たちと神戸の中心で交流することで何かを創造する場をつくるというのは面白いと思います。

○南部委員　　4 ページ、5 ページを拝見していきまして、ちょっと整理をしておかないと、多分これをごらんの方が誤解されてしまう部分があるのかなと思いました。ポチの書き方が、一体どう理解したらいいんだろうと、o r なのか a n d なのか。そのあたりをちょっと整理しないと、パッとごらんになった方が、全部作るのかと思われてしまう。この中で最適なものを選んでいかれるとは思いますが、例えば順番をつけていくのもあると思うんですが、このポチの捉え方をちょっと整理をしたほうがいいのかというふうに思いました。

○岡田会長　　これまで重ねてきた議論の中で、皆様方から頂戴した、あったらいいねから始まって、これが望まれるっていうことで出てきたものがここに集約されているのかなと思います。

この報告書につきまして、これをより分かりやすく、もう少し掘り下げてはどうかという部分もございました。あるいは、それこそ前と後を替えようじゃないかとか、これが1つ1つがo r なのか a n d なのかっていうようなこともございます。それから、もう少し上のコンセプト、概念というのが必要ではないかという御意見もございました。6 ページはもっとまとめることもできるのではないかと等いろんな意見を頂戴いたしました。今後、報告書が市民の方々に公表されるそのときに、我々の意図したことができる限り正確に伝わるようにまとめていきたいと思っております。最終の案ができたときには、あらかじめ皆様方にご覧いただいて最終チェックをいただきます。最終的にまとめることにつきましては、会長に御一任いただくというようなことでよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○岡田会長　　ありがとうございます。

皆様方の力強い御意見、あるいは御支援を頂き、本当にありがとうございました。

○事務局 岡田会長、どうもありがとうございました。また、各委員の皆様方も、本日もたくさんの御意見いただきまして、どうもありがとうございます。

先ほど、会長のほうから御説明もございましたけれども、本日いただきました御意見を事務局のほうで整理をさせていただいた上で、修正を行ってまいりたいと思っています。その際には、各委員の皆様方にできる限りフィードバックさせていただいた上で、最後、会長と調整させていただいた上で確定させていただきたいというふうに考えておりますので、どうぞよろしくお願ひしたいと思ひます。

また、最終的には、確定させていただいたものにつきましては、神戸市議会に対します報告、報道機関への資料提供という形での公表を考えていきたいと思ひますので、皆様方におかれましては御承知の程、よろしくお願ひしたいと思ひます。

本日は、懇話会に御協力いただき、どうもありがとうございます。岸本行財政局長から、御挨拶させていただきたいと思ひます。

○岸本行財政局長 この懇話会、今日で4回でございます。4回にわたりまして、会長をはじめ委員の皆さん方、御出席いただきまして、また非常にさまざまな御意見を頂戴いたしまして、ありがとうございます。1回目のときに、私の方も申しましたけれども、1号館を建てましたときに、庁舎の建替えの検討会を設置しましたが、そのときは行政の庁舎ということがメインでございました。ただ、今回2号館、また3号館ということになりましたときに、2号館が60年、3号館が50年ということで、庁舎を建てるということになれば、そのぐらいの年数ということになりますので、これから三宮、あるいは神戸は変わる中で30年後、40年後も含めて、どういったものが1番いいのかということの御議論を、是非、お願ひをしたいというのが初の思ひでございました。

4回に渡りまして、さまざまな御意見いただきまして、我々のここにおります内部の職員だけで会議をしても全く出ない、さまざまな御意見を頂戴いたしまして、本当にありがとうございます。この4回にわたりまして、皆様方から頂戴をいたしました、

また取りまとめていただきますこの懇談会での御意見も踏まえて、我々、すばらしい将来の神戸になるように努力してまいります。それをお約束いたしまして、本当に長くに渡りまして、御意見を頂戴し、またこういった形で御参加いただきましたこと、改めて御礼申し上げまして、御挨拶とさせていただきます。本当にありがとうございました。

○事務局　これで、神戸市役所本庁舎のあり方に関する懇話会を終わらせていただきます。